

カボチャ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	べ と 病	疫 病	菌 核 病	炭 疽 病	苗 立 枯 病	つ る 枯 病	う ど ん こ 病	白 斑 病	軟 腐 細 菌 病	果 実 斑 点 細 菌 病
ハツパ乳	NC		-	-							◎			
Zボルドー水	M1		-	-									◎	◎
イオウFL	M2		*b	-							◎			
マスタピース水	NC		1	-									◎	
トップジンM水㊤	1		1	5								◎		
ベンレート水㊤	1		1	3								◎		
アフェットFL	7		1	3						◎	◎			
ストロビーFL	11		1	3	◎						◎			
ライメイFL	21		1	4	◎	◎								
ランマンFL	21		1	3	◎	◎								
フルピカFL	9		1	4							◎			
スミレックス水	2		14	3			◎							
サルバトーレME液	3		1	3							露			
スコア顆水	3		3	3							◎			
トリフミン水	3		1	5							◎			
ラリー水	3		1	3							◎			
ポリオキシシAL溶	19		7	3						◎	◎			
アリエッティ水	P7		1	3	◎	◎								
キノンドー水40	M1		7	3	◎			◎						
サンヨール乳	M1		1	4							◎			
ジマンダイセン水	M3		21	2	◎	◎		◎		◎				
ペンコゼブ水	M3		21	2	◎	◎								
オーソサイド水80	M4		*a	5					◎					
			14		◎		◎							
ダコニール1000FL	M5		7	3	◎					◎	◎			
ベルクートFL	M7		7	4							◎			
モレスタン水	M10		1	3							◎			

カボチャ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	べと病	疫病	菌核病	炭疽病	苗木立枯病	つる枯病	うどんこ病	白斑病	軟腐細菌病	果実斑点細菌病
リドミルゴールドMZ顆水	4・M3		30	2	◎	◎								
フォリオゴールドFL	4・M5		7	3	◎	◎								
シグナムWDG	7・11		1	3						◎	◎			
ベジセイバーFL	7・M5		7	3	◎					◎	◎	◎		
アミスターオブティFL	11・M5		7	3	◎	◎					◎			
ショウチノスケFL	9・U13		1	2							◎			
テーク水	3・M3		21	2	◎	◎					◎			
フェスティバルC水	40・M1		3	3	◎	◎								
カンパネラ水 ベネセット水	40・M3		21	2	◎	◎								
カーニバル水	40・M5		7	3	◎						◎			
プロポーズ顆水	40・M5		7	3	◎	◎					◎			
ベトファイター顆水	40・27		3	3		◎								
パンチョTF顆水	U6・3		1	2							◎			

◎:チオファネートメチル含有剤 ⊙:ベノミル含有剤 ⊕を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。

*a:播種後～2～3葉期まで *b:発病前～発病初期

露:露地栽培

カボチャ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒害 性	使用 時期 (日数)	使用 回数	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	カ ボ チ ヤ ミ バ エ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ネ キ リ ム シ 類	ウ リ ノ メ イ ガ シ 類	ウ リ ハ ム シ 虫 類	コ ガ ネ ム シ 類	ケ ダ ニ ラ 類	ハ ダ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	
スミチオン乳	1B		14	3	◎	◎												
ダイアジノン粒5	1B		*a 21	2 4						◎				◎				
ネマトリンエース粒	1B		*c	1														◎
マラソン乳	1B		1	5	◎							◎						◎
アグロスリン乳	3A	劇	1	5	◎		◎		◎									
アディオン乳	3A		1	5	◎													
ロディー乳	3A	劇	3	3	◎													
アドマイヤー1粒	4A		*b	1		◎	◎											
アドマイヤー顆水	4A	劇	*f	2	◎													
アルバリン顆溶	4A		1	2	◎	◎												
スタークル顆溶			*e	1	灌													
アルバリン粒	4A		*b	1	◎	◎												
スタークル粒																		
ダントツ溶	4A		3	3	◎				◎				◎					
ダントツ粒	4A		*b	1	◎													
モスピラン顆溶	4A	劇	1	2	◎				◎			◎	◎					
モスピラン粒	4A		*d	1	◎													
			*b			◎												
ディアナSC	5		1	2						◎								
アフーム乳	6		1	2				◎										
コルト顆水	9B		1	3	◎	◎												
ニッソラン水	10A		1	2														◎
コテツFL	13	劇	1	2				日										
カスケード乳	15		1	3					ト									
トリガード液	17		1	3					◎									
カネマイトFL	20B		7	1														◎
サンマイトFL	21A	劇	3	2		◎												◎
モベントFL	23		7	3	◎	◎												◎
フェニックス顆水	28		1	2						◎								
ベネビアOD	28		1	3					◎	◎								
ウララDF	29		7	2	◎													

*a:播種時又は定植時 *b:定植時 *c:定植前 *d:播種時
 *e:定植前日～定植時 *f:収穫前日まで(但し露地栽培については着果後から)
 日:日本かぼちやにミナミキイロアザミウマでの登録 ト:トマトハモグリバエ
 灌:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットに灌注処理する。

カ
ボ
チ
ヤ

カボチャ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	苗床期 ～生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスターオプティフロアブル 1000倍 アリエッティ水和剤 400～800倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍	
疫病	定植前 生育期	・排水不良の圃場での栽培をさける。 ・発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アリエッティ水和剤 400～800倍 ジマンダイセン水和剤 600倍	
うどんこ病	生育期	・発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 イオウフロアブル 500倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 トリフミン水和剤● 3000～5000倍 フルビカフロアブル 2000～3000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
モザイク病	生育期	・アブラムシ類を防除する。	
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオソ乳剤 2000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍	
コナジラミ類	定植時 生育期	・次の薬剤を植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アドマイヤー1粒剤 2g/株 ・発生を見たら次の薬剤を散布する。 サンマイルフロアブル 1000～1500倍	
ウリハムシ	生育期	・成虫の発生を見たら、次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	
ネコブセンチュウ	播種前 定植前	・床土は消毒する(土壤消毒の項参照)。 1. 作付予定地で、前作物に寄生があったところでは土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を施用し、土とよく混ぜる。 ネマトリンエース粒剤 20kg/10 a	